

最近の琵琶湖南湖の水質等の状況について

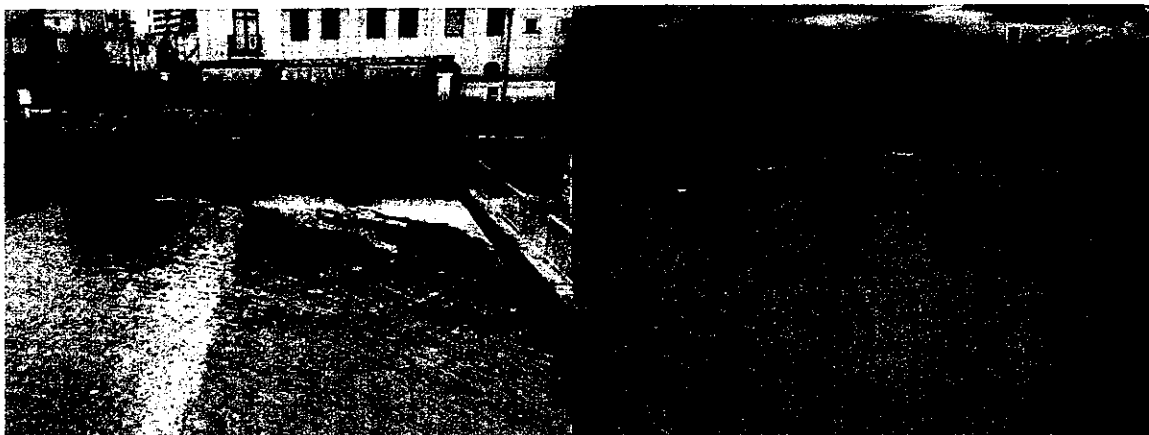
○湖岸部の泡立ちについて

8月下旬頃より、南湖の湖岸部において、泡立ちが見られるようになったことから、調査を実施したところ、現在までに以下のことが分かった。

- ・洗剤由来の界面活性剤の成分は検出されず、泡立ちは、植物プランクトンの分解過程で生じるタンパク質と多糖類が、風、波、船の航行などによりかき混ぜられ、発生した可能性が高いと考えられた。
- ・泡状物質は、人体への影響は無く、水道への影響も無い。
- ・現在、タンパク質と糖類の詳細な分析を行っている。
- ・今回のように植物プランクトン由来と考えられる発泡現象は、海では「波の花」として知られているが、淡水においても、過去に中禅寺湖や宇治川などでも見られた記録があり、琵琶湖でも、1987年に大津港で同様の泡立ちが見られた記録がある。



琵琶湖文化館周辺(8月24日)



琵琶湖疏水(第一)周辺(8月27日)

大津港(9月3日)

鴨川に泡状浮遊物^{IP}

プランクトン由来、アユ漁者困惑



鴨川を流れ、よどみに溜まる白い泡状の浮遊物(25日午後4時すぎ、京都市東山区・鴨川の団栗橋付近)＝撮影・水澤圭介

京都市中心部を流れる鴨川や白川などで、白い泡状の浮遊物が水面に広がっている。市上下水道局によると、琵琶湖のプランクトンに由来する泡で健康に影響はないというが、鴨川ではアユの網獲の

館前の地下水路から流出後、白川を経て四家大橋の上流から鴨川に流れ込んでいる。直徑数センチの固まりになって流れに点々と浮かび、触ると少しぬるぬるした感触で、臭いはない。鴨川の団栗橋付近では、よどみで泡がたまり、クリームを川にたらしめたようになっていた。周辺はアユがよくとれるポイントといわれ、アユ漁の愛好者も多かったりです。困っているという。

琵琶湖漁協組合員の市村英志さん(71)＝中京区＝は「1週間ほど前から泡が出始めたよ。うた。こんなことは初めて。気味は悪いので、アユの網獲が止ま

時季と重なり、愛好者らが困惑している。泡が目立ち始めたのは今月20日ごろからで、左京区の琵琶湖疏水記念

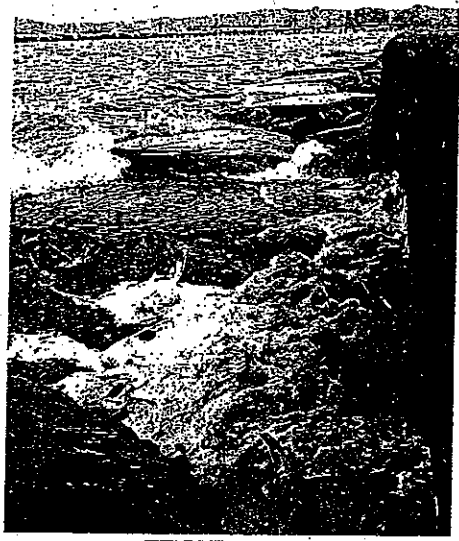
話している。市上下水道局は「琵琶湖からプランクトン由来の泡が流れ込んでいる。まれにある。人体には無害で水道水への影響もないので、自然に収まるのを待つ」という。(水澤圭介)

琵琶湖岸 謎の白泡

県、原因調査へ

鴨川浮遊物の原因？

琵琶湖の南湖を中心に今夏、湖面に白い泡が漂い、波打ち際で「波の花」のような泡の塊がでる現象が目立っている。滋賀県でも泡はプランクトン由来とみられるが、詳しい原因は謎という。京都市の鴨川などで先週から見られる泡状の浮遊物の原因になっている可能性も高く、調査を進める方針。



近江大橋に近い大津市田美浜の琵琶湖岸。湖面に白い泡が帯状に漂い、波打ち際の石垣には泡の塊が膨らんでいるという。

琵琶湖環境科学研究所(大津市)の先センター(大津市)によると、琵琶湖に白

泡は琵琶湖のプランクトンが分解されてきたタンパク質とみられるが、顕微鏡で覗いても「何のプランクトンに由来する泡なのか、既に細かく分解されているために分からない」という。

泡にぬめり気があるものの、臭いはなく、今のところ人体や魚水道への影響があるとの報告は寄せられていない。ただ、湖岸を散歩している人が「何の泡か」と興味津々感じているという。

泡は琵琶湖のプランクトンが分解されてきたタンパク質とみられるが、顕微鏡で覗いても「何のプランクトンに由来する泡なのか、既に細かく分解されているために分からない」という。

泡にぬめり気があるものの、臭いはなく、今のところ人体や魚水道への影響があるとの報告は寄せられていない。ただ、湖岸を散歩している人が「何の泡か」と興味津々感じているという。

通じて流れ込んでいる可能性が高いとみられる。同センターは「原因をどのように調べるか、対策も含めて検討したい」としている。(三好吉恵)

○アオコの発生状況について

9月7日現在、11日間6水域（延べ19水域）で発生しており、昨年度の5日間3水域（延べ8水域）を既に上回っている。

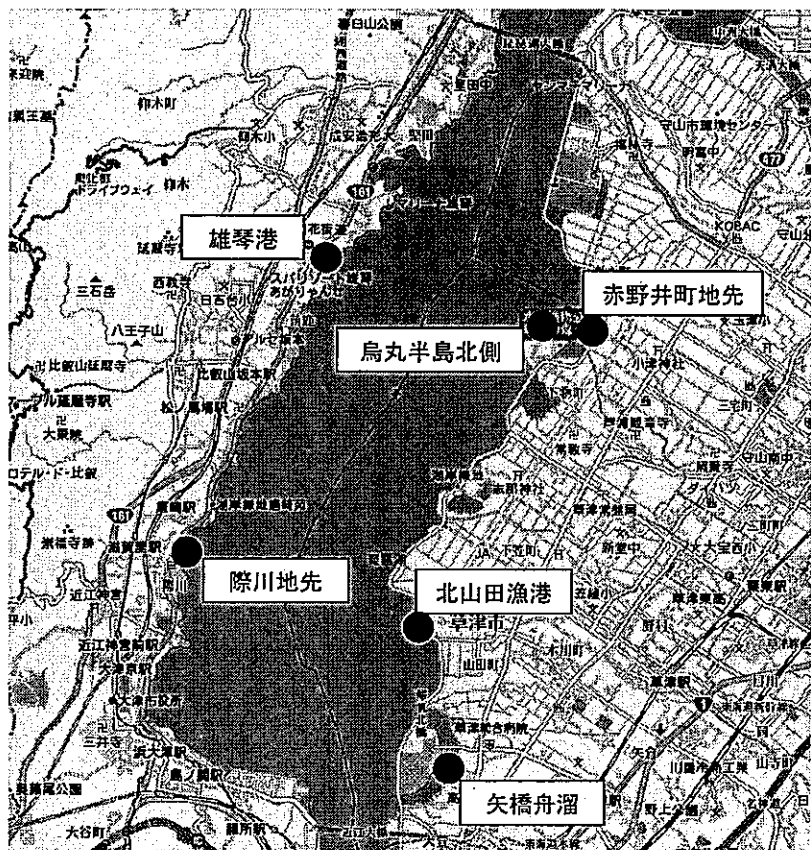
	発生確認日	場所	レベル	規模	水温(°C)	主な構成プランクトン
第1号	平成24年7月27日	烏丸半島北側	4	3m*20m	33.0	ミクロキスティス属
第2号	平成24年8月6日	烏丸半島北側	4	5m*8m	30.0	アナバナ属
第3号	平成24年8月17日	北山田漁港	4	40m*5m	32.3	アナバナ属
		烏丸半島北側	4	20m*4m	34.9	ミクロキスティス属
		赤野井町地先	4	30m*4m	33.8	ミクロキスティス属
第4号	平成24年8月30日	北山田漁港	4	200m*20m	32.2	ミクロキスティス属
第5号	平成24年8月31日	矢橋舟溜	4	20m*5m	29.4	ミクロキスティス属
		雄琴港	4	5m*2m	34.0	ミクロキスティス属
		際川地先	4	40m*10m	32.0	オシラトリア属
第6号	平成24年9月5日	北山田漁港	4	6m*140m	30.0	アナバナ属
第7号	平成24年9月7日	矢橋舟溜	4	20m*5m	29.0	アナバナ属
		北山田漁港	4	50m*3m	29.0	アナバナ属
		烏丸半島北側	4	10m*3	30.0	アナバナ属
		際川地先	4	40m*10m	30.5	アナバナ属

レベル4：水表面を膜状にうっすらとアオコが覆う。

レベル5：水表面に厚くマット状にアオコが覆う。

レベル6：アオコが腐敗し、浮き滓状になって湖面を覆い、腐敗臭を発する。

<平成24年度アオコ発生水域図>



<アオコ発生日数および水域数の経年変化>

